

第34回光学サマーセミナーを終えて

天野 主 税

(日本電信電話(株)フォトニクス研究所)

本会主催の第34回サマーセミナーが、去る8月24日より3日間、上智大学軽井沢セミナーハウスにて、総勢52名の参加を得て開催された。本稿では、参加者の方々に執筆していただいた感想文をもとに、本セミナーの実施状況を報告する。

まず、今回初めて参加していただいた2名の方々の感想を紹介しよう。

東京大学工学部、仁科潤さんより、「日本光学会主催の第34回サマーセミナーが開催されました。ところは軽井沢町の上智大学セミナーハウス。辛い残暑からひととき開放されるとともに、バラエティーに富んだ講義題目に期待が膨らみました。セミナー全体を通じてのタイトルは『世の中を変える光技術』。各講演ともに分野の先端に触れながらも、私のような予備知識のない参加者に対する十分な配慮のおかげで興味深く聴講しました。同時に光研究に驚くほど多様な分野が存在することに改めて気づかされます。今回は幹事の方々の配慮により、恒例の懇親会より先にイブニングセッションがプログラムされ、デモ実験の独特なムードも手伝ってか参加者の間に自然な連帯感が生まれたことと思います。個人的には企業から参加の方々によるデモ展示は普段われわれ学生があまり触れることのないトピックに関するものであり興味深く拝見しました。セミナーも終わりにさしかかると寝食をともにした参加者の中で活発な交流がなされ、私にとってつかの間とはいえ貴重な体験となりました。リラックスした空間の提供に非常に尽力して下さった方々に感謝したいと思います。」

住友重機械工業株式会社、林健一さんより、「8月24日から3日間上智大学軽井沢セミナーハウスで開催された。参加者には、元気な学生が多く、企業からの参加者を上回っていた。水面の波面観察が好きだったという日立基礎研究所の外村さんをはじめとして、3日間にわたり、各分野

の第一人者から、直接、最新情報を聞くことができた。講義の先生方も、お互い専門外の討議に参加され、深夜まで、あちこちで小グループの討議が行われた。イブニングセッションでは、京都工芸繊維大学の久保田さんから、波面のホログラフィー記録と再生観察。人魂の光学実験は、『見える』『見えない』という声に合わせての霜田先生の熱演であった。2日目の午後にはサイクリングや散歩で軽井沢を満喫してリフレッシュ。セミナーハウスは設備も新しく、整っていた。普段はまったく冷房が不要とのことだが、50名ほどが議論をはじめると暑い軽井沢セミナーになった。実行委員会とスタッフの皆様にはお世話になりました。」

本誌第29巻第6号、および7号に本セミナーのプログラムが掲載されているが、実際の雰囲気は少しでも感じ取っていただけたであろうか。

本セミナーの企画・実行は、上智大学理工学部の石川和枝先生、シチズン時計株式会社の橋本信幸幹事、および筆者が担当した。2000年1月に第1回目の実行委員会を開催した後、日程、場所、テーマ、予算、プログラム、勧誘方法、および当日の実行計画等を、合計6回の実行委員会で練り、のべ4回の幹事会、常任幹事会で審議、議論いただいた。準備期間中には、岩田耕一幹事長、山口一郎前幹事長をはじめ、現幹事、前回の実行委員、学会事務局の方々に随時コンタクトをとり、幾多の問い合わせ事項に丁寧に対応していただいた。また、スタッフの学生諸氏は当日非常によく動いてくれた。これら多くの方々の協力が結実し、無事今回の企画を終えることができたと思っている。

今振り返ってみるといろいろな感想や反省が頭の中を巡るが、その中で特に印象に残った点を述べる。第一に、「参加者は神様だ」ということである。参加登録された方々の氏名が1人、また1人と増えるにつれ、われわれの企画したプログラムに参加の意を表していただいた方々に、素直に感謝したい気持ちになった。勧誘時期には、「1人でも多くの参加者を集めなければ」とのあせりもあった



最終日、セミナーハウス玄関前にて。

が、むしろ等分のエネルギーを実行計画の詰めに注ぎ、参加者の方々に少しでも充実した場を提供したいとの意欲に変わっていった。

第2に、イブニングセッション、そして2日目の臨時イブニングセッションにおける驚くほどの盛況さである。今回、デモ講師として招待した2名の先生方のほかに、実行委員3名、一般参加者2名でデモ、展示等を行った。先生方の熱演が参加者に多大な感動を与えたことはいまでもないが、今回初めて一般参加者からのデモが実現できた点は、非常に貴重なことだと思っている。今後、参加者全員、特に学生諸氏が、簡単なポスター展示等を通して、気軽に自分の研究内容や興味ある点を紹介し合える場も提供し、いわゆる「光学」のトピックを話題とした総合的な懇親会スタイルにしていけたら本望である。

引き続き参加2回目の方々のご感想を紹介させていただく。理化学研究所、立花佳織さんより、「私は、サマーセミナーへの参加は、今回で2回目になります。昨年の参加では、さまざまな光の世界を知ることができ、新鮮でした。今年も、昨年とはまた違う光の世界を知ることができ、楽しい時間を過ごすことができました。それぞれの講演では、その分野の話を基礎的なことから聞くことができ、それに対する知識がなくても、その世界に入っていくことができました。また、今回は講師の方々とのディスカッションの場がありました。その場を通して、さらにその分野への理解を深めることができましたように思います。そして、講師の方々とお話することで、その方の物に対する考え方に触れることができ、大変貴重な経験ができました。また、このサマーセミナーは、他大学の方や企業の方と知り合うよい機会であると思います。ほかの環境で研究等がされている方々とお話することは大変刺激になりました。

た。また機会がありましたら、このような会に参加したいと思います。」

イーストマン・コダック・ジャパン株式会社、清水栄一さんより、「昨年に続き2度目の参加であったが、今年も期待を裏切ることなく有意義でとても楽しい3日間を過ごすことができた。日常業務の中で先進的な技術を扱うことはほとんどないので、このようなセミナーに参加し世の中の最先端の技術に触れることは、とても刺激になる。また、自分の関心分野以外のことはとかく不勉強になりがちだが、こういった機会を通じて概要を知ること、単に個人の知識の幅を広げるに留まらず、新たな業務分野の開拓などに対しても、今後貢献していけそうだ。前回は感じたことだが、多くの大学生諸氏がセミナーに参加されていたことを、本当に素晴らしいことだと思う。学部生にとって、自分の専門外の分野でしかも先端技術ともなれば、限られた時間の講義だけで理解することは大変難しい。しかし、技術内容そのものの理解よりもっと大切なもの、すなわち研究に対する情熱や心構えといった精神的な内容を、十分吸収できたに違いない。可能であれば、来年もぜひ参加したいと思っている。」

プログラムからは読み取れない本セミナーの意義を少しでも感じとっていただければ、幸いである。

最後に、今回のセミナーでの講演を快く引き受けてくださり、また多大の準備の労をとってくださった講師の先生方に改めて御礼申し上げます。また、今回多忙の中、本稿のために感想文を執筆していただいた4名の方々に感謝いたします。本稿の読者が一人でも多く、今後光学サマーセミナーに興味をもち、参加の機会を得ていただきますことを祈念して、筆を置かせていただきます。